

国語	学習に関する児童の実態・課題	教科で身に付けさせたい資質・能力	具体的な授業改善の方策
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ▲基本的な文字は書けるようになった。しかし、3 割ほどの児童は文章を書く際の促音、拗音、長音、撥音などの助詞の使い方に課題がある。 ▲話すこと・聞くことでは、伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫すること、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさずに集中して聞くことができない。 ▲書くことでは、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書くことや、文章を読み返し、間違いを正したり語と語や文の続き方を確かめることができない。 ▲読むことでは、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方を理解し、文や文章の中で使える力。 ・適切な声の大きさや速さで話をする力。また、相手の知らせたいことや聞きたいことを落とさずに最後まで聞く力。 ・声のものさしを活用した、適切な声の出し方。 ・聞かれていることを理解し、文章中から適切に選び出す力。また、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の平仮名・片仮名、漢字を正しく活用させたり、句読点を活用させたりしながら、文章を書かせていく。 ・声のものさしを活用し、適切な声の大きさを確認できるようにする。 ・自分の考えを文章にした後に、自分の文章を読み返し修正できるように、見直しの観点を示していく。 ・話している人の方を向き、「話すのは一人」の習慣を身に付ける。 ・文章中の言葉に着目させ、どのような意味か理解をさせていく。

1 年	1 組	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名を正しく書くことができる。 ○自分の考えや思いを表現することができる。 ▲漢字や片仮名を正しく書いたり、使ったりすることができない。 ▲長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」を正しく使うことができない。 ▲自分の力で本を読み、内容を理解することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方を理解し、文や文章の中で使える力を身に付ける。 ・とめ・はね・はらいを意識して漢字、片仮名を正しく書く力を身に付ける。 ・自分の好きな本を選び、楽しみながら内容を理解する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の書きたい内容の日記を毎週書かせ、正しく文章を書く力を高める。 ・家庭学習や日々の授業の中で、漢字や片仮名を使う機会を増やし、正しく書く力を身に付けさせる。 ・漢字の成り立ちについて教え、漢字に興味をもたせる。 ・低学年向けの絵本を紹介し、自分に見合った本を選ばせる。 ・読書の時間を多く取り入れ、読み聞かせや本を読む機会を増やす。
1 年	2 組	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名を正しく書くことができる。 ○自分の考えや思いを発表することができる。 ▲長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」を正しく使うことができない。 ▲自分の力で本を読み、内容を理解することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方を理解し、文や文章の中で使える力を身に付ける。 ・とめ・はね・はらいを意識して漢字、片仮名を正しく書く力を身に付ける。 ・自分の本を選び、読書を通して、言葉や分の使い方、内容を理解する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語、述語を意識して、相手に伝わりやすい文章を書く力を高める。 ・学習中、家庭学習等で、漢字や片仮名を使う機会を増やし、正しく書ける力を身に付けさせる。 ・漢字の成り立ちや意味について教え、興味をもたせる。 ・読み聞かせをする中で、興味をもった本を選ばせる。

算数	学習に関する児童の実態・課題	教科で身に付けさせたい資質・能力	具体的な授業改善の方策
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算では、具体物を用いて、答えを導き出すことができる。しかし、10 の合成・分解が未だ具体物を用いないとできず、加法・減法の計算の際に困難が見られる。また、十を単位とした数の見方が定着しておらず、十といくつに分解することができない。 ・測定では、時刻を読む際に長針と短針が表すものの理解が曖昧で、定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かして、自ら問題を解決し、表す力。 ・基本的な加法と減法（繰り上がり・繰り下がりも含む）を確実に行うことができる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み、前時との違いを児童に確認させた上で、問題解決の大事な観点を提示し、表現させる。自ら表現することが難しい児童には、文型を提示し、穴埋めをさせたり、問題解決のヒントを教員が提示する時間をとる。 ・くじらーニングを活用する。

1 年	1 組	<ul style="list-style-type: none"> ▲10 の合成・分解をすることに時間がかかる。 ▲答えを導くための考え方を自分の言葉で表現する力が十分ではない。 ▲文章題での正しい立式と答え方を導き出す力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10 の構成を理解する力。 ・10 より大きい数のたし算・引き算の計算を正しくできる力。 ・答えを導くための考え方を自分の言葉で表現する力。 ・問題を正しく読み取り、正しく解く力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習では、毎日基礎的な計算プリントを用意し、計算力を高める。 ・朝学習では、くじらーニングに取り組みさせる。 ・自力解決する授業を多く取り入れ、考えた筋道をノートに表現させる。 ・ポイントになる言葉を押さえ、立式させる。
1 年	2 組	<ul style="list-style-type: none"> ▲10 の合成・分解をすることに時間がかかる。 ▲文章題での正しい立式と答え方を導き出す力が弱い。 ▲時間の読み取りができるが、表記すると長針と短針の位置が曖昧である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を確認し、どのような解決方法があるか予想を立てさせてから取り組む力。 ・10 より大きい数の足し算・引き算の計算、繰り上がり・繰り下がりの計算が正しくできる力。 ・問題を正しく読み取り、正しく計算する力。 ・答えを導くための考え方の言語化・文章化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算プリントで計算力を高める。 ・朝学習で、東京ベーシックドリルやくじらーニングに取り組みさせる。 ・ポイントになる言葉を押さえ、立式させる。 ・日頃から時計を読ませるよう声をかけ、時間の概念に触れさせる。